

芹澤信雄さん（プロゴルフ選手）

静岡県御殿場市出身。もともとはアルペンスキーの選手だった。高校時代には国体で県代表になったほどの実力だった。高校1年の夏休みに、スキー合宿の費用を稼ぐためゴルフ場でキャディーのアルバイトをやったのがゴルフとの出会いで、18歳から本格的に取組み、22歳でプロテストに合格。初優勝は87年の『日経杯』で、96年の『日本マッチプレー選手権』でメジャー初優勝を手に入れている。飛距離より安定感と巧みなスコアメイクで知られる理論派。明るい人柄で、教え方が上手いと後輩から慕われ、藤田寛之、宮本勝昌、上井邦裕、西山ゆかり、木戸愛らで「TEAM SERIZAWA」を結成し、15年にはチームセリザワ・ゴルフアカデミーを旗揚げした。レギュラーツアーは通算5勝。47歳で右肩の手術に踏み切った後の10年にシニアツアーデビューし、10年に初優勝している。株式会社TSI グルーヴアンドスポーツ所属。

<修正しながらの前進>

私の高校時代はひたすらスキーに夢中でした。夏の間の資金稼ぎでキャディーのアルバイトをやって、ゴルフの魅力にとりつかれたのです。ゴルフの醍醐味は色々ありますが、大きな特徴は「やり直し」がきくということです。アルペンスキーの場合は一度の失敗は取り返しがつきません。ゴルフは18ホールあります。いまの失敗を次のホールに生かす、あるいは次のラウンドで修正することができます。ですから、絶対に諦めないことです。

私は身長173cm、体重70kgと平均的な日本人男性の体格で、ジャンボ尾崎さんのように豪快に飛ばすことは出来ませんでした。ツアー優勝もできました。厳しかったのは47歳の時の左肩の故障です。50歳からのシニアツアー参加を目標にしていたから、考え抜いた末に手術に踏み切り、1年のリハビリを経て、シニアに入って間もなく優勝を飾ることができました。今年の8月には人工股関節を埋め込む手術を受けて、復帰した今年の夏の太平洋クラブシニアでホールインワン、初日トップという喜びも味わっています。諦めない、これが、私がゴルフを通して貫いてきたことです。

ゴルフプロは私の仕事で、仕事にはきついこともあり、諦めないと思っても心が挫けそうになることがあります。それでも前に進もうという気持ちにさせるのは、面白いからです。面白いのは、真剣に取り組んだ結果があるからでしょう。面白さと真剣が噛み合って前へ明日へと進んでいく。肉体と技術を磨きながら、もっともっと面白さを加えて行きます。だから、一にも二にも練習です。

日本はゴルフが盛んな国です。やるゴルフ、観るゴルフ、欧米に負けない人気を誇っています。高齢者も女性も自然の中で無理なく楽しく遊べるスポーツだからでしょう。ただ、心配なこともあって、若い人たちが出不精になっています。たとえば、ゴルフを楽しむには車が欠かせませんが、マイカーを持たないのはともかく、若者の間には免許を取ることさえ控える風潮があります。この出不精な世代をどうやって引っ張り出すか。インターネットに包囲された時代ですから、道筋を作ってあげなければ出口は見つけにくい。そういうことを意識しながら、これからも現役で頑張っていきます。